

工業技術開発大賞 6社選定

独創性光る技術

【ことしで二十五回目の開催を迎えた神奈川工業技術開発大賞。スタートから四半世紀がたち、これまでに百四十四の技術がオンリーワンとして高い評価を受け、表彰された。今回は県内の中堅・中小企業から二十三件の応募があった。県内のものづくりを支える企業のため、努力から生まれた六件の優れた技術や製品を紹介する。】

(經濟部) 〓本記一面に

高性能な成膜の安定作製が可能

【フルオートプラスチックV D装置】(片桐エソシニアリ ング〓横浜市鶴見区矢向) プラスマCVD(化学的気相成膜)装置の分野で、より高性能な成膜を安定して作製できるフルオート型の装置を開発した。この装置の導入で、

これまで労力を要していた成膜条件の設定の省力化が進むため、次世代の半導体デバイス、燃料電池、太陽電池などの先端分野への応用が期待されるカーボンナノウォールなどの高機能性薄膜が提供できる。

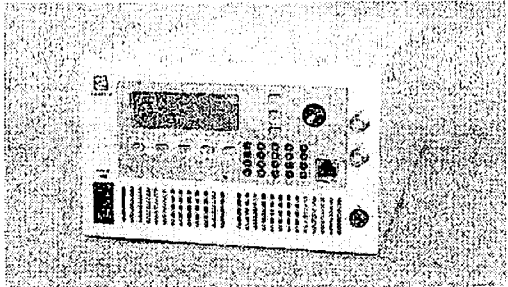
▽資本金1000万円。従業員29人。片桐俊郎代表取締役。

試料の分析時間

10分の1に短縮

【高精度で迅速な試料測定を可能にしたモーターコントローラー】(神津精機〓川崎市麻生区栗木)

エックス線回折分析装置などで利用される検出器の高速化などに伴って、試料の測定部位を精密に決める技術が重要度を増している。開発したコントローラーでは測定タイ



ミングをより細かい単位で制御し、要する分析時間も従来の十分の一程度に短縮した。この結果、研究機関などの試料分析がスムーズとなり、新たな材料の開発につながることで期待されている。

▽資本金9965万円。従業員140人。神津博行代表取締役社長。

大賞

